

平成28年度学校自己評価システムシート (県立和光高等学校)

目指す学校像 「そうぞう」する力を伸ばし、「きょうどう」する元気な集団を育てる学校

重点目標	1 考える力と正しい判断力を養う学習指導 2 規範意識と思いやる心を育てる生活指導 3 夢と目標を育み、具現化させる進路指導 4 一日一笑、明るく元気なクラスと部活動
------	--

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※ 学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	6名
	生徒	5名
	事務局(教職員)	11名

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標			年 度 評 価 (2月1日現在)				
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度 次年度への課題と改善策	
1	【現状】 ・家庭学習の習慣が定着していないなど意欲に乏しく、集中が長続きしない生徒が多数みられる。同時に基礎学力が定着していない生徒が多くいるが、反面高校ではしっかりと学力を身に付けたいという前向きな者も多くいる。 【課題】 ・家庭における学習環境に恵まれない者がいる。 ・学力の個人差が大きく、授業の進度・難度の設定が難しい。 ・「何のために勉強をするのか」など元々の学習に対するモチベーションが不十分で、意欲の喚起まで時間を要する。 ・学校設定科目「ベーシック」の効果的な活用を追求する。	授業研究を推進し、教員個々の授業力の向上を図る。	・相互の授業観察を推進し忌憚のない意見交換を行い、新たな授業スキルの創設に向けて校内の共助を確立する。 ・学校間ピアレビューを活用し他校の実践を学び共有する ・授業公開日の来校者を増やし、生徒・保護者の授業アンケート・感想・アンプを実施し、双方向からの伸展を図る。 ・教員対象の講演会を開き研修の場とする。	初任者・年次研修者に限らず、授業を開くことで職員間相互の意見交換を図り個々のスキルアップができたか。	相互観察や研究協議など教科ごとの授業力向上に係る取り組みは為されたが、学校全体での組織的な対応は不十分であった。初任者等の年次研修に当たる者の指導は適切に実施されるがそうでないケースでは個々の研究と実践に頼るのが実情である。生徒にとって解りやすくなるための授業の創設に向けより計画的・体系的に推し進めることが必要である。 学校間ピアレビューについては、他校の実践を観察する以上に他校の教員に本校の授業を見てもらうことで生徒も合わせて授業に取り組む姿勢と意識の向上が図られた。	授業力向上に向けて、現在実施している相互の授業観察にとどまらずより効果的なスキルアップにつながるよう研修会を定期的に設定する。 保護者や中学生に公開することで授業に対して向き合う姿勢を向上させた。見られているという意識は現状の改善につながっていく。 経験の少ない若手が多い本校ではアクティブラーニングの模索に対し多くの可能性を有するはずである。	C
2	【現状】 ・基本的生活習慣の確立が不十分な生徒がおり、遅刻欠席の数が増加傾向にある。 ・問題行動の数は減少しているが、スカートの長さや化粧など特に女子の服装・髪型について指導を受ける生徒がいる。 ・集団での行動を苦手とする生徒も見られる。 【課題】 ・自己を律する姿勢・態度の醸成 ・家庭との連携	遅刻数・欠席数の減少 制服の着こなし状況	・遅刻指導を継続し、遅刻0になるよう指導の在り方を改善する。 ・5分前行動を心がけ、チャイム着席を徹底。 ・新設の小学校と連携した地域・社会貢献活動の創設。 ・授業開始ごとの服装指導、授業中の巡回を実施。	遅刻数・欠席数 制服の着こなし 生徒会活動の活発化	遅刻数は昨年度と比べ600人ほどの減少が見られ、改善の兆しが見られる。 整容指導は各学年で取り組みを行った結果、一定の改善が見られた。 今年度から配置された相談員との連携が充実し、生徒指導上の課題解決におおいに役立させることが出来た。教育相談体制に組み込み連携の強化を図りたい。	現行の遅刻指導の徹底を図ることを目的とする。遅刻指導体制の整備を行うことにより、教員が取り組みやすい仕組みを整える。 整容指導は学年による指導基準のばらつきが見受けられた。来年度の課題は統一の指導基準のもと指導体制を整えることである	B
3	【現状】 ・3年間を見通した体系的な進路指導が確立されておらず、対応が後手に回る生徒が多い。 ・基礎学力が不足し、選抜試験に対する対応が不十分で消極的な選択になりがちとなる。 【課題】 ・キャリア教育を充実させ、早い段階から具体的な目標を見据えさせる。 ・論文や面接などすべての教員が指導に携われる体系的な指導を計画する。	希望進路決定者数の早い段階での増加	・学年ごとに進路に係るシラバスを策定、実行する。 ・進路学習をより細分化し理解を早い段階で深める。 ・始業前や放課後の補習の実施。 ・面接・論文指導を全教員が指導・支援する。 ・「自分発見！高校生感動体験プログラム(就労体験)」を活用し、労働からやりがい・生きがいを見出し職業観を育成する。	進路結果 早い段階での進路意識の醸成	1・2年生共に進路の分野別説明会を実施することにより進路意識を高めるとともに理解が深まった。3年生については、家庭状況などにより変更を余儀なくされ一部活動に行き詰まる者もあった。センター試験受験者など進学希望も合わせ、多様な進路選択に対する適切なアプローチが必要となる。	毎年実施している夏季休業中の3年生進路補習に對して、結果を検証するなどPDCAサイクルに従いより体系化を進め、職員全体の協力を得ながら継続させたい。 「進路のしおり」をより効果的なものとなるよう全面改定したが、進路指導を職員全体が共有するための資料として活用したい。 生徒の情報の共有化とより一層の保護者との連携を模索したい。	B
4	【現状】 ・部活動加入率が年々低下しており放課後の活気に欠ける。 ・「この程度でいいや」というあきらめに近い停滞ムードがみられる。 【課題】 ・部活動に対する意欲と向上心の醸成 ・新しい取り組みの創設 ・校外に向けての情報発信とPR活動	部活動加入率の上昇	・日常の部活動の活性化を図るために部員数を確保する。 ・活動をホームページで紹介披露し学校の代表として活躍する気概を養う。	部活動加入率の増加(1年生80%以上)	実質的な加入率の上昇は残念ながら見られなかったが(微増)、特に文化部の積極的な活動が家庭部・生物部・吹奏楽部などで顕われた。書道部と美術部も合わせ文化祭で発表展示する機会を創れたという事は大いに価値があると考えている。	昨年度に比し全国レベルの大会出場がかなわなかった。突出した生徒の頑張りが大切だが地道な活動の延長に榮光が待っていると考える。まずは部活動加入を着実に促進させたい。	B
	【課題】 ・アメリカ合衆国への生徒派遣 ・ホームページ閲覧者の増加	アメリカ合衆国への生徒派遣	・新たに設定した事業である。代表の生徒を派遣するが選ばれるための努力と切磋琢磨の精神で学校を明るく雰囲気を変える。	国際理解教育の浸透	10月25日から1週間の旅程で10名の生徒がアメリカを訪れた。同窓会や和光ロータリークラブのご支援もいただき、現地高校生徒の交流で得た国際理解教育の進展以上に同道された市民の方々の好評価など、地域の信頼を得る大きな原動力となった。その意味で十二分に目標を達成した。	平成29年度は訪問を受け入れる年となる。この事業の継続を第一義に据え、本校での交流事業の成果が再来年のさらなる発展につながるよう企画していきたい。英語力向上に結び付けたいと考えている。	A
		ホームページ閲覧者の増加	・学校行事や部活動の状況をホームページに掲載し地域や卒業生に教育活動を伝え理解と支援を求める。	ホームページ閲覧1日500件	記事の更新は毎日という訳にはいかなかったが、生徒の活躍を紹介する表紙写真はほぼ毎日更新できた。目標の1日当たり500人の閲覧には今のところわずかに足りていないが、年度内に達成可能な地点にいる。目標達成に向けてさらに努力していきたい。	より多くの職員が記事掲載に携われる環境整備に努め、生徒たちの活動を広く宣伝したい。励ましが新たな意欲を創るはずである。	A

学校関係者評価	実施日 平成29年2月8日
学校関係者からの意見・要望・評価等	・生徒個々のレベルに合わせて授業を行うのは困難だと思いますが、少人数編成クラスや習熟度別クラスを活用することで成果を挙げられていると感じています。学力向上に向けさらに工夫改善をお願いします。 ・6月の事業見学時は教師と生徒の距離感がある感じだったが、2月の時は教師と生徒の距離が縮まっていた、協力の授業に取り組んでいたのが良かった。 ・教室にゴミが沢山落ちているのが気になる。学習環境の整美によりより大きな成果が期待される。 ・2年次からはクラスの生徒数が増えるが、ITなどの対応を行ったり、指導案の作成、研究校への視察等を行うなどの適切な対応が為され非常に良いと考えている。 ・入学早々に三者面談を実施され、家庭環境の把握や生徒理解、保護者との連携に活用されており素晴らしいと考える。
	・生徒指導に関しては色々と工夫されておりその成果も上がっているようだ。継続して指導され遅刻減少に努めていただきたい。 ・和光市の海外派遣や新設小学校との連携など生徒が地域で活躍することで、他から見られるという意識を醸成して、自主的改善に向かわせるよう取り組ませたい。
	・教員の指示が無くても各種行事が運営進行できるようになったと聞き大変好ましく感じている。生徒の主体的活動の推進は教育活動の要諦だと思う。
	・学校相談員をしっかりと活用され、関係する教員と相談員及びカウンセラーが出席する情報共有の会も適切に運営されていると思います。
	・私はかつてラグビー部に属し全国大会を目指し頑張ってきた。今となってはとても貴重な財産となっている。強い弱いは別にして高校年代は何か打ち込むことが必要である。部活動のさらなる活躍を期待しています。 ・昨年は野球部OBがプロ野球に進んだり、昨年は陸上部がインターハイに出場、将棋愛好会も全国大会に出場した。今年度は様々な活躍は聞かえなかったが着実に頑張っているようだ。応援しているのもっと部員確保から頑張ってください。 ・アメリカ合衆国への生徒派遣は地域からも高い評価をいただいております。素晴らしい決断であったと思う。継続的に国際理解教育の進展に尽力してもらいたい。 ・HPについては頻繁な更新がされており学校の様子がよくわかる。ご苦労に感謝している。スマホからは見にくい箇所があるので構成にもう一工夫お願いしたい。